

# 妊娠前「ワクチン接種を」

## 風疹流行 赤ちゃんに障害

昨年、風疹が大流行した影響で、赤ちゃんの耳や心臓などに障害が出る先天性風疹症候群（CRS）の報告が相次いだ。また、麻疹（はしか）は今年、減少傾向にあった患者数が増加に転じた。1本のワクチンで風疹とはしかの両方を防げるとして、専門家は予防接種を呼びかけている。

### 男性の予防も大切

岐阜市に住む可児佳代さん（60）は昨年、CRSの患者会「風疹をなくそうの会」を立ち上げ、共同代表になった。「これ以上、同

じ思いをする親を増やしたくない」と考えたからだ。1982年、妊娠初期に風疹に感染した。生まれた長女はCRSで、白内障や

難聴、心臓病があった。18歳で亡くなった。

風疹は、せきやくしゃみを通して感染する。2、3週間後に熱や発疹、リンパ節の腫れなどが出る。妊娠20週ごろまでの女性が感染すると、CRSの赤ちゃんが生まれる可能性がある。

2013年の風疹患者の報告数は1万4357人。12年の2386人、11年の378人と比べ、大幅に多かった。13年のCRSの報告も32人と統計のある19

99年以降で最多だった。なくそうの会には、CRSの赤ちゃんを産んだ女性から「子どもはどう向き合えばいいのか」などと不安の声が寄せられているという。可児さんは「母親は、感染した自分を責めてしまふ。情報も少なく、孤立しがちだ」と話す。

感染を防ぐワクチンは現在、1歳と小学校入学前1年間の計2回、定期接種として風疹とはしかの混合ワクチン（MRワクチン）を打つことになっている。制度の違いで接種する機会がなかったり、接種率が低かったりした世代がある。

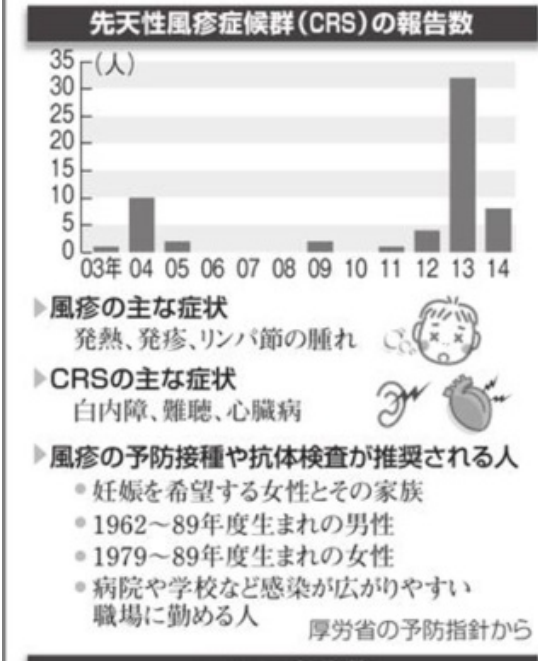
の久住英二院長は「風疹をなくすには、会社など小さな単位でどれだけ接種できるかが鍵」と指摘する。ただ、妊娠中の女性はワクチンを打てない。三井記念病院の小島俊行・産婦人科部長は「妊娠を希望する女性は、妊娠前にワクチンを2回打ってほしい。接種

後2カ月は避妊をする必要がある」と説明する。MRワクチンは自費で打つと1回1万円ほど。昨年度は多くの市町村が接種費用を補助したが、流行が沈静化したこともあり、今年度は免疫があるかを調べる検査費のみの補助に切り替えたところが多い。

### はしか急増の兆し

今年、はしかの患者数が増えている。感染研によると、5月4日までに報告された患者数は324人で、昨年1年間の232人を超えた。通常、春から夏にかけて流行するため、さらに患者が増える恐れがある。すべての患者を報告するようになった2008年は約1万1千人だったが、これ以後は大きく減っていた。

はしかは感染力が強く、空気感染する。熱やせき、発疹などが出て、肺炎や脳炎になることもある。患者の1千人に1人は亡くなる」とされる。今年検出されたウイルスの多くはフィリピンを中心に流行している「B3」というタイプ。現地で感染した人が帰国後に発症し、周囲に広げた形だ。日本の土着ウイルスとされる「D5」タイプは10年を最後に検出されていない。厚生労働省は15年度までに、はしかの「排除」を目指している。土着ウイルスによる感染が3年間確認されないことなどが条件になっている。しかし、B3タイプの患者が増えていくと、土着とみられかねないという。



対策に乗り出した企業もある。医療機器製造販売のサクラファインテックジャパン（東京）は昨年12月、MRワクチンの集団接種を社内ですべて実施した。インフルエンザとの同時で、費用は会社が負担した。担当したナビタスクリニック

川崎市健康安全研究所の岡部信彦所長は「はしかと風疹はMRワクチンで防げる。定期接種をきちんと受けるほか、接種したのかわからない人は抗体検査やワクチン接種を受けてほしい」と話す。（土肥修一）